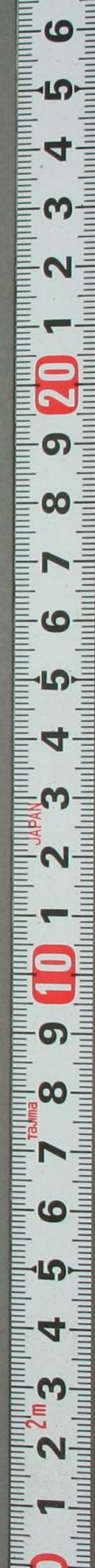
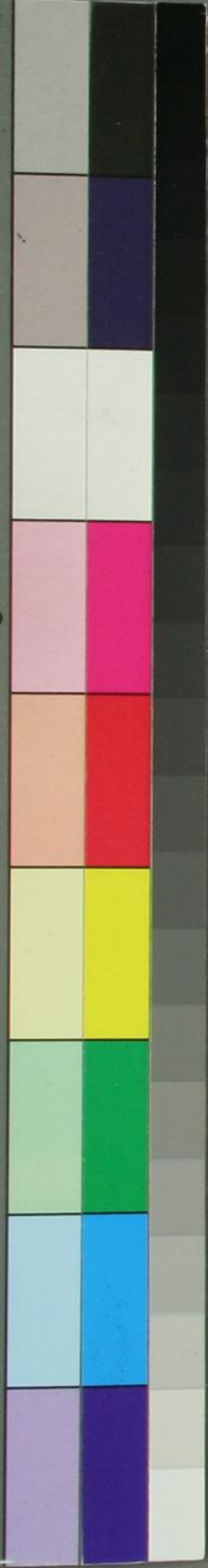


小學  
校用  
商業書

松田好生著

第二

ト 2
2908
2



門下 2  
號 2908  
卷 2



昭和49年6月7日  
松田壽男氏  
贈

49-1152

小學校用商業書第二

第十一章 組合會社

松田好生 著

凡ソ何ノ業ヲ問ハズ、數人相集リテ之ヲ經營ス  
ルトキハ、其利益大ナルハ言ヲ俟タズ、故ニ天下  
ノ商人ガ、盛大ナル事業ヲ營マント欲スルトキ  
ハ、數人協力スルコト肝要ナリ、況ンヤ鐵道運輸、  
土木ノ如キ宏大ナル事業ヲ起スニ至リテハ、一  
二人ノ力之ヲ能クスルモノニアラズシテ、數千

小學商業書

第二

教育書專賣所發行

ノ衆力相集リテ、始メテ經營スルヲ得ルナリ、是  
ゾ組合商會、及諸會社ノ起ル原因ナリト知ルベ  
シ、

抑組合トハ二名以上ノ人々、互ニ結約シテ共同  
ノ職業ニ就キ、共同ノ利益ヲ得ンガ爲ニ、資本ヲ  
合一シ、或ハ共ニ勞働シテ營業スルモノヲ云ヒ、  
會社トハ其人員甚多クシテ、政府ノ許可ヲ得テ  
株金ヲ募集シ、頭取、取締役、支配人等ノ如キ役員  
ヲ設ケテ、適宜ノ事業ヲ經營スルモノヲ云フ、故  
ニ組合ト會社トハ、其名義ハ相異ナレドモ、實ハ

大差アルニ非ズ、即結合ノ人員少クシテ、資本ノ  
少キモノヲ組合ト云ヒ、人員多クシテ、其資本ノ  
大ナルモノヲ會社ト云フ、會社ノ社員ハ唯株式  
ヲ有スルマデニテ、營業事務ハ役員ノ支配スル  
所ナレバ、社員ノ交迭アルモ、株金ニ變動ヲ及ボ  
サシレバ更ニ差支ナキヲ以テ、會社ノ株式ハ賣  
買讓與スルニ自由ナリトス、然レドモ組合ニテ  
ハ相互ノ規約アリテ、年限中ハ自由ニ退クコト  
能ハズ、而シテ其規約ヲ組合條約ト稱シ、通例商  
會ノ目的、開業ノ期日、開業ノ期限、資本ノ方法、利

益金ノ分配、會員ノ義務等ヲ記載スルモノニシテ、別段政府ノ許可ヲ得ルニ及バズ、單ニ組合人相互ノ條約ニ因ルモノトス、抑會社ニハ有限責任ト無限責任トノ別アリ、有限責任トハ若其會社不幸ニシテ失敗ヲ取り、負債ヲ生ズルトキ之ヲ償フノ義務ハ、唯株金限りカ或ハ其幾倍限りニ止リテ、更ニ社員ノ資産ヲ傾クルニ及バザルモノヲ云ヒ、無限責任トハ全ク之ト反對ニテ、會社ノ負債ヲ償フベキ義務ハ、遂ニ社員一同相連帶シテ、各自ノ資産マデニ及ボシ負債アル以上

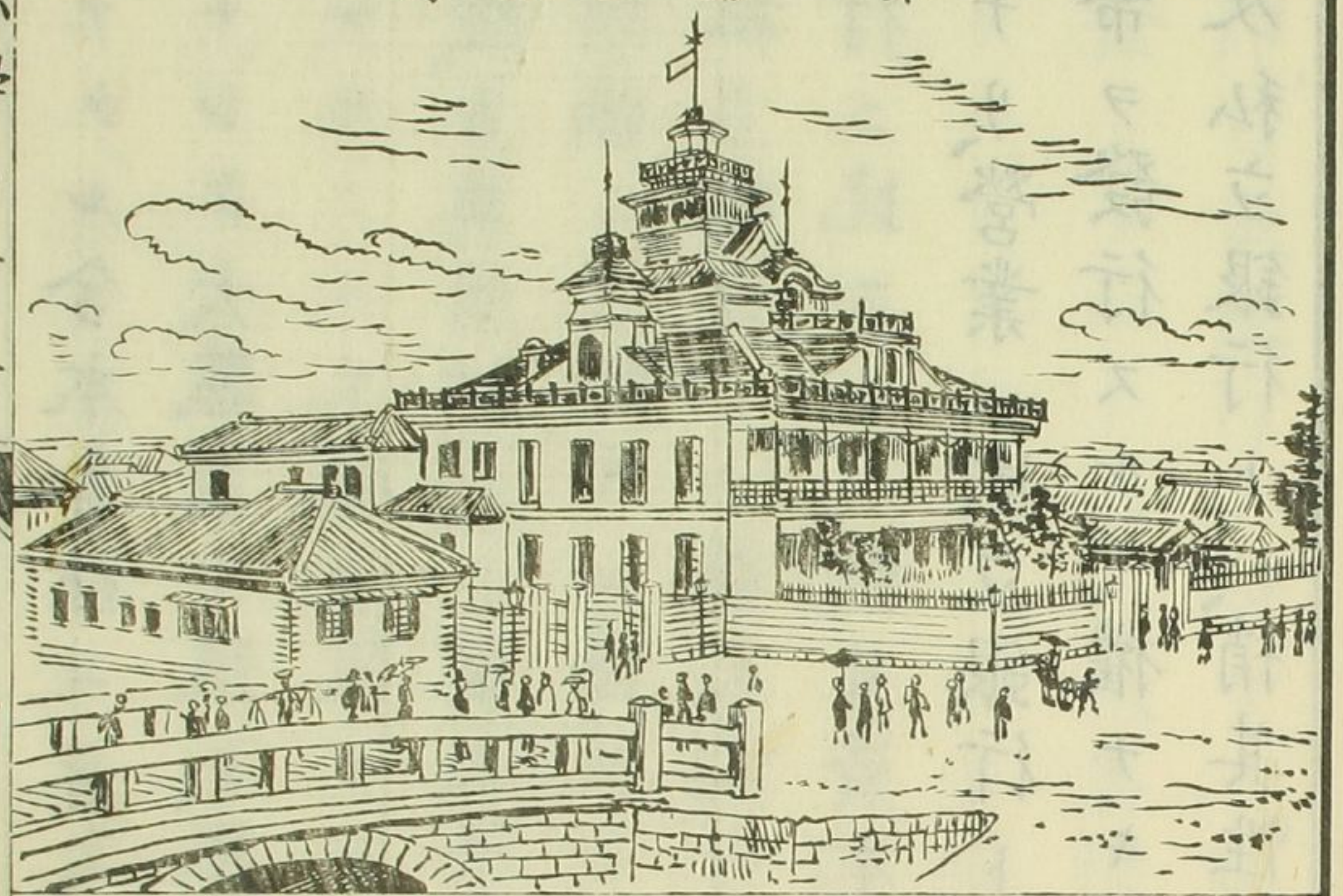
ハ、假令身代限りヲナスマデモ、償還ノ責任アルモノヲ云フ、  
凡ソ何ノ會社ニテモ、年ニ一回若クハ二回ハ、資産負債ノ總勘定ヲ爲シテ、其報告書ヲ社員ニ頒チ、若クハ之ヲ新聞紙ニ掲載シテ衆庶ノ覽ニ供シ、以テ株主ノ満足ヲ得セシムルモノトス、今我が國會社ノ著名ナルモノヲ舉グレバ、日本郵船會社、日本鐵道會社、日本土木會社、東京綿商社、帝國工業會社、海上保險會社、大坂商船會社、東亞貿易會社、大坂紡績會社等アリ、是等ハ資本金ノ稍

大ナルモノニシテ、皆百萬圓ヲ下ラズ、其他有名ナル會社各地方ニ乏シカラズ、又組合ハ大概我が邦ニテ、何々組、何々商會ナド、稱スルモノニシテ、世人ノ普ク知ル所ノモノナリ、

### 第十二章 銀行

銀行トハ、金錢ノ活動ヲ掌ドル業務ニシテ、廣ク衆庶ノ金錢ヲ預リ、地金、公債證書等ヲ賣買シ、コルレスボンテントト爲替ヲ取組、貸附金ヲ爲シ、手形證書ノ割引ヲ爲シ、兩替ヲ行フ等一二ニシテ足ラザルナリ、實ニ銀行ハ金錢ノ融通ヲ助ケ、

第一國立銀行



商人ニ世ノ信用ヲ得セシムル一大機關ニシテ、其商業上及國家經濟上ニ便益ヲ與フルコト少クナラザルナリ、凡ソ銀行ニハ、國立銀行、私立銀行ノ別アリ、國立銀行トハ政府ノ條例ヲ奉ジテ設立シ、其資本金ハ數多ノ株式ヨリ成立

チタル合本會社ニシテ、政府ノ公債證書ヲ抵當  
トシテ大藏省ニ預ケ、銀行紙幣ヲ發行スルヲ得  
ルモノニテ、之ヲ設クルニハ五人以上ノ協議ヲ  
經、五萬圓以上ノ資本金ヲ募集シタル上、政府ニ  
請願シテ許可ヲ得ベシ、  
私立銀行ハ一箇人又ハ數人ヨリ成立チ、國立銀  
行ニ比スレバ、概其資本モ少ク、又其區域モ狹小  
ナリ、營業ハ國立銀行ト大差ナケレドモ、銀行紙  
幣ヲ發行スルノ權ナキモノトス、此他國立銀行、  
及私立銀行トハ、稍其性質ヲ異ニスルモノアリ、

即日本銀行ノ如キハ、政府ノ國庫金ト人民ノ株  
金トヲ以テ設立シ、其役員ハ官撰ヲ以テ進退セ  
ラル、モノニテ、國立銀行トハ自其組織ヲ異ニ  
シ、正金銀行ノ如キモ、亦特ニ政府ヨリ發布セラ  
レタル、正金銀行條例ヲ奉ズベキモノニテ、稍其  
性質ヲ異ニスルモノナリ、  
夫不用ノ金錢ハ幾年之ヲ保存スルモ、決シテ一  
錢タリトモ増殖スルコトナキノミナラズ、却テ  
火災盜難ノ患アリ、而シテ其金高漸大ナルニ及  
ベバ、其憂慮モ亦漸甚シキニ至ルベシ、抑草昧ノ

世人智未開ケザル時ニ當リテヤ、人々不用ノ金  
 錢ヲ利用スルコトヲ知ラザルガ故ニ、常ニ之ヲ  
 其家ニ貯藏スルハ、普ク世人ノ知ル所ナリ、故ニ  
 此時代ニ在リテハ、多少ノ貨幣ハ常ニ石室ノ中  
 ニ在リテ、敢テ世間ニ流通スルコトナシ、然ルニ  
 今日ニ至リテハ、各地銀行ノ設有リテ金錢ヲ預  
 リ、且幾分ノ利子ヲモ配當スルガ故ニ、人々始テ  
 不用ノ金錢ヲ利用スルコトヲ知リ、又自家ニ保  
 藏スルヨリハ、一層堅固ナルヲ以テ、皆争テ銀行  
 へ預ケ金ヲ爲スニ至レリ、

抑商業ノ旺盛ナル諸國ニ於テハ、商業ハ常ニ大  
 金ヲ手元ニ置クコトナクシテ、之ヲ堅固ナル銀  
 行へ預ケ置クコト通例ナリ、而シテ金錢ノ仕拂  
 ヲ爲ストキハ、銀行へ宛テタル振出小切手ヲ以  
 テスルガ故ニ、大ニ金錢受授ノ煩ヲ省キ且誤算  
 ノ憂ナク、又贋造ノ貨紙幣ヲ受取ル等ノ恐ナシ、  
 實ニ好キ方便ト謂フベシ、  
 凡ソ預金ノ種類ニ當坐預金、定期預金アリ、當坐  
 預金トハ、臨時ニ其預金ヲ引出スヲ得ルモノニ  
 テ、定期預金ハ其期限ノ至ルマデハ、之ヲ引出ス

ヲ得ザルモノナリ、故ニ定期預金ノ利子ハ、當坐預金ノ利子ヨリ高キモノトス、此他通知預金、別段預金アリ、通知預金ハ其引出スベキ金額ヲ、若干日以前ニ通知シ置クモノニテ、當坐預金ニ比スレバ、其利子稍高キモノトス、別段預金ハ銀行ニ於テ之ヲ流用セズ、唯安全ニ之ヲ保藏スルノミナリ、故ニ素ヨリ利子ヲ附セザルモノトス、又爲替手形並ニ受取手形ヲ以テ、銀行へ預ケ置クトキハ、銀行自其手形ノ金額ヲ取立ツルガ故ニ、大ニ煩勞ヲ省クノミナラズ、若銀行ノ過失又ハ

懈怠ニ因リ、其金額ヲ受取ルコト能ハザル場合ニ立至ルモ、銀行ニ於テ其責ニ任ズルモノナレバ、預主ハ更ニ憂慮ヲ要セザルナリ、銀行ニ於テ手形ノ割引ヲ行フヤ、實ニ商人ニ莫大ノ便益ヲ與フルモノト謂テ可ナリ、何トナレバ未仕拂期限ノ至ラザル、爲替手形、約束手形ト雖モ、銀行ニ付キ相當ノ割引料ヲ以テ、之ヲ正金ト交換スルヲ得レバナリ、若商業社會ニ手形ヲ割引スルコト行ハレザレバ、手形ヲ所有スル人ハ、其期限ノ至ルマデハ、正金ヲ要スルコトアル



モ、空シク手ヲ束子テ之ヲ待ツノ外更ニ策ナカルベク亦不便ナリト謂フベシ、

凡ソ割引スベキ手形ニ、當所割引手形他所割引手形ノ二類アリ、當所割引手形ハ、其手形ヲ割引シタル銀行ニ於テ、仕拂ヲ受クベキモノヲ云ヒ、他所割引手形ハ、其手形ヲ割引シタル場所ト相異リタル土地ニ於テ、仕拂ヲ受クベキモノヲ云フモノニシテ、此種ノ手形ヲ割引スルトキハ、其抵當ヲ要スルヲ常トス、其資ニ於テハ、銀行ハ内外ノ諸方ニ支店ヲ置キ、或ハコルレス

ポンテントヨ設ケテ、此地ヨリ彼地へ爲替ヲ取組ムヲ以テ、其功甚大ナリトス、昔我ガ國未爲替ノ法アラザリシ時ハ、人馬ヲ以テ貨幣ヲ遞送セシカバ、大ニ費用ヲ要セシノミナラズ、天災人禍ノ患モ亦甚大ニシテ、其不便謂フベカラザリシモ、今日既ニ全國到ル處銀行ノ設アリテ、爲替ヲ取組ムガ故ニ、僅ニ一片紙ノ手形ヲ以テ、巨萬ノ金額ヲモ措辦スルヲ得ルニ至リシハ、實ニ便利ナリト謂フベシ、

銀行ハ、其資本金及他人ヨリノ預金ヲ以テ、諸人

ニ貸與スルモノナリ、斯カル場合ニ於テハ、公債  
證書、諸會社株券、地券、地金ノ如キ正確ナル抵當  
ヲ要スルヲ常トスレドモ、信用アル人ニハ、無抵  
當ニテ貸附スルコトモアルナリ、之ヲ信用貸ト  
稱フルナリ、今夫汽船ヲ購ヒ、或ハ土地ヲ開墾ス  
ルガ如キ事業ニ至リテハ、一人一個ノ力、容易ニ  
之ヲ爲シ得ベキニアラズ、故ニ斯カル場合ニ於  
テハ、銀行ヨリ資本ヲ借受ケテ、始メテ其目的ヲ  
達スルヲ得ベシ、銀行ノ貸附金ヲ爲スノ功益亦  
大ナリト謂ヒツベシ、

銀行ハ兩替ヲ爲スモノナレバ、大札ヲ小札ニ換  
へ、小札ヲ大札ニ換へ、又ハ金銀ヲ紙幣ニ換へ、紙  
幣ヲ金銀ニ換へント欲スルトキハ、之ヲ銀行ニ  
齎ラセバ、何時ニテモ直ニ引換ユルヲ以テ、大ナ  
ル便利ヲ與フルモノナリ、  
右ノ外銀行ハ、製造工業ヲ勸メ、又ハ世間ノ信用  
ヲ保持スル等、其便益舉ゲテ數フ可カラザル  
ナリ、  
又交換所ト稱スルハ、一市内ノ諸銀行結約ノ上  
毎日集會シテ、其領收シタル爲替手形、振出手形、

振出小切手等ヲ相互ニ交換シテ、彼此ノ負債ヲ  
差引勘定センガ爲ニ設ケタル所ナリ、故ニ此設  
アルトキハ、各銀行互ニ使者ヲ馳セテ決算スル  
ガ如キ、迂遠ナル方法ヲ要セズシテ、其便益實ニ  
大ナリ、米國新克ニ於テ、始テ現行交換所ノ設立  
アリシ以來、苟銀行ノ設多キ土地ニ於テハ、有用  
缺ク可カラザルモノトセリ、  
貯蓄銀行ハ、細民ノ爲ニ小額ノ金錢ヲモ預リ、之  
ニ利子ヲ附シテ貯蓄セシムルノ仕組ナリ、然ル  
ニ世ニハ往々迂濶ナル者アリテ、日々些少ノ金

錢ヲ残スモ、更ニ之ヲ貯フルコトヲ欲セズ、漫然  
徒費シテ敢テ顧慮スルコト無シ、甚シキ誤謬ナ  
リト謂フベシ、諺ニ曰ハズヤ、塵積リテ山ト爲ル  
ト、日々拾錢ヲ貯フルモ、一個月ニハ三圓トナリ、  
一年ニハ三拾六圓トナリ、十年ニハ三百六拾圓  
トナル、決シテ輕視スベカラズ、今ヤ驛遞局ニ貯  
金課アリ、又民間ニ貯蓄銀行ノ設アリテ、充分貯  
金ノ便利ヲ得ルガ故ニ、心アル者ハ之ニ預クル  
ヲ宜シトス、況ンヤ利子ヲモ附シテ返付スルニ  
於テヲヤ、

第十三章 運輸

夫海ノ内外ヲ問ハズ、苟氣候、地質、風俗ノ異ナル所ニテハ、産物ノ種類相同ジカラズシテ、甲ノ富ム所ハ乙之ヲ缺キ、乙ノ富ム所ハ甲之ヲ缺クハ、世界ノ常勢ナリ、故ニ通商交易ノ要ハ、其一方ニ富ム所ノ物ヲ以テ、他ノ一方ノ缺ク所ニ換ユルニアリ、然レドモ運輸ノ便アラズンバ、何ヲ以テ之ヲ行フヲ得ンヤ、今ヤ陸ニハ鐵道ヲ敷キ、瀛車ヲ設ケ、河ニハ橋梁ヲ架シ、山ニハ隧道ヲ穿テ、丘ヲ崩シ、谷ヲ埋メ平坦砥ノ如ク、一瞬間ニシテ數

十百里ノ遠キニ達シ、又海ニ迅速ナル瀛船アリテ、狂瀾怒濤ヲ破リテ走り、常ニ内外諸港ノ間ヲ往來ス、是商業上ニ便益ヲ與フルコト、最大ナルモノト謂フベシ、而シテ古來使用スル所ノ、舟車馬牛ノ如キモ、近年水陸ノ通路益開ケタルガ爲、一層其便ヲ感ズルニ至レリ、抑運輸ノ便開クルヤ、各地ヨリ物産ノ輸出ヲ促スガ故ニ、自然各市場ニ於テ物價ヲ一樣ナラシムルニ至ル、昔通運ノ便未開ケズ、江戸大坂ノ間ニハ、所謂三度飛脚ノ外、更ニ其便ナカリシ頃ニ

當リテヤ、江戸ノ米ハ一石五圓ナルニ大坂ノ米ハ四圓ナルガ如ク、相場ノ差違甚シカリシコトモアルベシ、然レドモ一タビ通運ノ便開ケテヨリハ、互ニ其有無ヲ交換スルガ故ニ、現今ニ於テハ既ニ東京ト大坂トノ間ニ大ナル差違ヲ生ゼザルニ至レリ、是モ亦運輸ノ便否ニ關スル一證ナリ、抑商人タルモノハ、常ニ能ク商業上ノ地理ヲ諳記シ置キ、先物品ヲ仕入レ、又ハ遠方ヘ輸送セントスルトキハ、第一ニ運搬ノ便否ヲ考フベシ、然

ラザレバ其便否ニヨリ、元來廉價ナル物品モ案外ノ高價トナリテ、不慮ノ損亡ヲ來スガ如キコトナキニアラズ、凡ソ物品ヲ輸送シテ需用者ノ手ニ達スル迄ニハ製産者ノ受取ルベキ原價ト、其運賃トヲ合算スルハ勿論、其他製産者ニ仕拂フベキ原價ノ利子、及運輸中物品ノ損亡ヲ負擔スル保険料、及倉敷料、荷造費、積換料ノ如キアリ、此等ヲ合算スレバ實ニ大ナル失費ナリ、之ニ加フルニ運輸ノ不便アルトキハ、莫大ノ金額ト爲ルベシ、故ニ當初物品ヲ仕入ルトキハ、原價ノ上

ニ此等ノ費用ヲ加フルモ、尚利益アルヤ否ヤヲ、  
熟考スルコト實ニ肝要ナリ、

抑我が國ニテ水運ノ業ヲ取ルモノハ、日本郵船  
會社ヲ以テ最大ナリトス、内地樞要ノ諸港ハ勿  
論、清國上海へモ定期航海ノ業ヲ開キ大坂商船  
會社ハ、中國、四國、九州ノ諸港へ通運ノ便ヲ圖リ、  
大湖漁船會社ハ琵琶湖上ノ渡航ヲ專ニシ、其他  
漁船、風帆船ノ來往スルモノ亦多ク、而シテ外國  
ノ運輸ニハ、米利堅線並ニ歐羅巴線トモ、外人ノ  
會社少カラズ、水運ノ業亦大ニ開ケタリト謂フ

ベシ、元來荷物ヲ廻漕スルハ、荷主、船主間ノ結約  
ナレドモ、其中間ニ周旋屋、廻船問屋、積問屋等ノ  
媒介人アリテ、益、世人ノ便利ヲ増進スルモノナ  
リ、依リテ物品ヲ送ラントスルトキ、其荷物ヲ周  
旋屋ニ托スレバ、周旋屋ハ船主ト相談シテ、之ヲ  
處理スルガ故ニ、其便甚大ナリ、凡ソ荷物ヲ廻漕  
セント欲スルモノハ、充分其荷造ヲ堅固ニシテ、  
濡損又ハ漏洩等ノ患ナキ様ニ心掛クベシ、若出  
荷人ニ於テ荷造リニ不注意アリテ、其荷物ニ損  
害ヲ生ズルトキハ、荷受人ヨリ損害要償ヲ申出

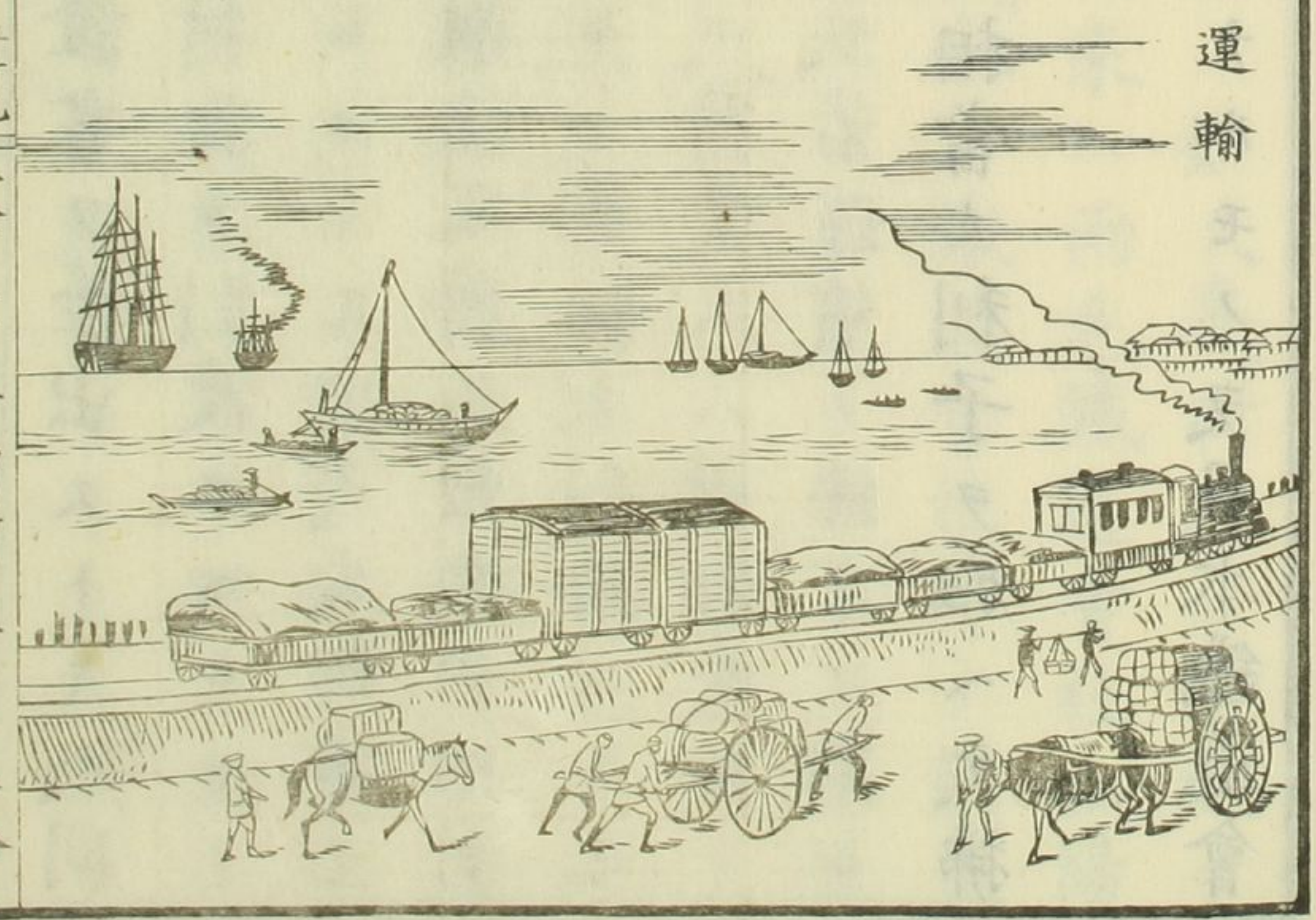
ラル、トモ、更ニ之ヲ免ル、コト能ハザルベシ、故ニ米、鹽、酒、油、杯ノ如ク、特ニ浸潤或ハ漏洩シ易キ物品ハ、積込ノ際船主ト特別ノ約ヲ結ビ置クヲ宜シトス、尤廻漕ノ貨物ハ、船長ノ保護スベキ時間内ニ、紛失又ハ損害ヲ生ズレバ、船主ハ其荷主ニ對シテ、其貨物ノ原價ニ相當スル金圓ヲ償フベキモノナリ、故ニ荷物廻漕ノ依頼書ニハ、必其原價ヲ正シク記載シ置クベシ、但渡航中船舶ノ衝突、破碎、沈没、其他水火、盜難ノ如ク、凡ソ人力ヲ以テ防禦スベカラザル災難ハ、船主其責ニ任

ゼザルモノナレバ、其節ハ船主ヘ向ヒテ償ヲ求ムルヲ得ズ、此等ノ損害ヲ負擔セシムルニハ、海上保險會社ノ設アレバ、其保險ヲ受ケ置クヲ宜トス、若荷主ニシテ船主ヨリ注意ヲ受ケナガラ、荷造ニ注意セズ契約ヲ定メズシテ、廻漕中損失ヲ生ズルモ、船主ニ對シテ要償ヲ訴フルコト能ハザルモノトス、故ニ荷造ニ宜シク注意シ置クベシ、又荷主ハ荷物ノ外包ヘ荷印ヲ明記シ、且符號及輸入地ノ港名、荷受人ノ住所姓名等明細ニ記シタル荷札ヲ付置クヲ要ス、若荷印及荷札ヲ

付ケズ、又ハ文字ニ誤謬杯アルトキハ、着荷先ニ  
 テ荷物ヲ留置カレ、又渡シ違ヒ杯アルモ計ルベ  
 カラザレバ、文字ハ勢メテ明瞭ニ記スベク、又荷  
 札モ途中ニテ脱落セザル様、堅ク結ビ附ケ置ク  
 ベシ、抑荷印ノ用ハ、一ノ荷物ヲ以テ迅速ニ且明  
 白ニ、他ノ荷物ト區別スルヲ得ルモノニシテ、荷  
 受人ハ勿論、廻漕會社ノ荷物取扱方杯モ之ガ爲  
 大ニ便益ヲ得ルモノナリ、又荷物ヲ廻漕會社ニ  
 依托スルトキハ、會社ヨリ荷物ト引換ヘニ船積  
 證ヲ渡スベシ、此船積證ト稱スルモノハ、出荷人

ヨリ、依托シタル荷物ヲ、  
 廻漕會社ノ船舶ニテ輸  
 入地マデ、廻漕スベシト  
 承諾シタル證書ニテ、通  
 常荷物ノ種類、個數及出  
 荷人、荷受人ノ姓名等ヲ  
 記載シアルモノトス、出  
 荷人ハ之ヲ受取り、速ニ  
 荷受人ヘ送附スベシ、而  
 シテ荷受人ハ其地ニ於

運輸





ケル、其會社ノ支店へ此證書ヲ差出ストキハ、同  
店ハ此證書ニ照合シテ、荷物ヲ引渡スベキモノ  
ナリ、又運賃ハ前拂ニスルコトモアリ、又向拂ニ  
スルコトモアレドモ、大概注文荷ハ向拂ナルヲ  
常トス、而シテ向拂ノトキハ、荷物ト引換ヘニ之  
ヲ拂渡スベキモノナレバ、荷受人ハ荷物受取ノ  
トキ其運賃ヲ持行クベシ、若運賃ノ拂方ヲ怠ル  
トキハ、其日數ニ應ジテ相當ノ利子ヲ加ヘテ、拂  
ハザルヲ得ザルベシ、  
又陸運ノ業ニ於テ巨大ナルモノヲ、日本鐵道會

社トナス、其他通運會社ノ如ク、專ラ荷物ノ運送ヲ  
掌ドルモノ少カラズ、近來ハ兩毛鐵道會社、山陽  
鐵道會社、九州鐵道會社、水戸鐵道會社等ノ創立  
アリテ、益、鐵道線路ノ延長スルアラントス、鐵道  
ノ便期シテ俟ツベキナリ、  
凡ソ鐵道ニテ、荷物ヲ運送セント欲スルトキハ、  
鐵道局荷物掛ヘ到リテ、荷物ヲ引渡シテ受取證  
ヲ取置クベシ、又賃金ハ荷物ノ品種、容積、重量等  
ニ依テ異ナルモノナレドモ、旅人ノ手廻リ物ニ  
テ手ニ携ヘ得ル物ハ、總ベテ無賃ナリトス、斯ク

シテ輸送シタル荷物ハ、着車後二十四時間内ニ受取ルベシ、若此時間ヲ經過スルトキハ、荷物ニ損害ヲ生ジタリトモ、更ニ要償ノ權ナキモノトス、尚其詳細ナルコトハ、各停車場ニ掲載シアレバ附キテ見ルベシ、

### 第十四章 保險

凡ソ世間ノ事、千態萬狀固ヨリ預メ知ルベカラザルモノアリ、今日富榮ナルモ、明日貧窮スルモノアリ、朝ニ喜ブベキコトアルモ、夕ニ悲ムベキコトアリ、故ニ無事ノ日ニ於テ豫メ不虞ニ備ヘ

ザレバ、一朝ニシテ幾多ノ災害ヲ蒙リ、甚シキハ産ヲ破リ、家ヲ失ヒ、妻子ヲシテ饑寒ニ陥ラシムルノ憂アリ、此危険ヲ避ケンガ爲ニハ、平時幾分ノ金額ヲ支出シテ、他ノ者ニ負擔セシメ置キ、災害ノ起ルニ際シテ、約定ノ金額ヲ辨償セシムルコト、極メテ肝要ナリトス、是保險法ノ起ル所以ニシテ、泰西諸國ニ於テハ、此法專ラ流行セリ、然レドモ一人一家ニシテ、之ヲ負擔シ得ベキ事業ニアラザレバ、通例會社ヲ設ケテ此業ヲ營メリ、之ヲ保險會社ト云フ、又此危険ヲ保護セララル、者

ヲ被保人ト呼ビ、被保人ヨリ拂フ若干ノ金額ヲ  
保険料ト云ヒ、其負擔ノ約定書ヲ保險證書ト云  
フナリ、

凡ソ保險ハ人命財産ニ關スル、各種ノ危険ニ應  
用スルヲ得ルモノナレバ、其種類大抵左ノ如シ、  
海陸保險、火災保險、生命保險是ナリ、

海上保險トハ、船舶若クハ貨物ノ甲地ヨリ乙地  
へ、渡航スル間ニ起ル種々ノ危険ヲ擔任シテ、被  
保人ノ一朝損失ヲ蒙ルトキハ、其損失ノ前後ニ  
定メタル、金額ヲ被保人ニ辨償スベキヲ契約ス

ルモノナリ、凡ソ貨物ヲ船積シテ、之ヲ遠方へ運  
送スルトキ、保險ヲ附クルハ通例ナリ、何トナレ  
バ船舶ノ渡航中、往々災難ニ遭遇シテ貨物ヲ亡  
失シ、貨主ハ爲ニ大ナル損害ヲ招クコトアルヲ  
以テナリ、其渡航スル船舶ニ、保險ヲ約スルモ亦  
同理ナリ、  
海上ノ損失ハ、共擔分損ト特擔分損トニ分テリ、  
特擔分損ハ、特殊ノ物品ニ對スル損失ニシテ、船  
中ノ全體ノ物品ヲ、損失スルニ及バザル場合ノ  
損失ナリ、

共擔分損トハ、船長ノ全船ヲ安全ナラシメンガ  
 爲、樁ヲ倒シ或ハ積荷ヲ水中ニ投棄シタルトキ  
 等ニ當リ、其損失シタル貨物ノ持主ハ、船中ノ貨  
 物ヲ有スル、一般ノ荷主ヨリ分擔ヲ得ルノ權利  
 アルモノニシテ、此分損ヲ名ケテ、共擔分損トハ  
 云フナリ、  
 陸上保險ハ、唯陸路ニ依リテ運送スル間ニ生ズ  
 ル、危險ノミヲ負擔スルモノナリ、然レドモ單一  
 ノ保險書ヲ以テ、共ニ海陸上ノ保險ヲ爲スコト  
 アリ、但海陸路ヲ經テ運搬スル物品ハ、此ノ如ク

海陸兩路ノ保險ヲ附スルヲ常トス、  
 海上及陸上保險書ハ、二種ニ分テリ、カウチド估價保險書  
 及未估價保險書ト云フ、オクシ估價保險書トハ、文中ニ  
 保險シタル貨物ノ價格ヲ示シタルヲ云フモノ  
 ニシテ、一朝損失ノ起ルトキハ、被保人ヲシテ其  
 貨物ノ價格ヲ證明セズシテ、約定ノ金額ヲ得セ  
 シムルモノナリ、未估價保險書トハ、保險シタル  
 貨物ノ價格ニ關シテ、雙方ノ間ニ約定ノ明文ヲ  
 記載セザルモノニテ、其價格未定マラザルモノ  
 ナリ、

我が國ニテモ、先年東京海上保險會社ノ設立アリテ、本店ヲ東京ニ置キ、大坂、神戸、馬關、長崎、四日市、横濱、新潟、函館、石ノ巻等ノ如キ、定期航海ノアル地ニハ、廣ク代理店ヲ設置セシガ、保險ノ申込日ヲ逐ヒテ盛ナリト云フ、

火災保險トハ、或財産ノ火災ニ罹リテ燒失スルトキ、豫定ノ金額ヲ支給スベキ結約ナリ、故ニ苟財産ノ安全ヲ謀ラント欲スルモノハ、必此保險ヲ約スベキコトナリ、外國人ハ商品ハ勿論、家屋、倉庫、衣服、器具等ニ至ルマデ悉、火災保險ヲ約ス

ルコト通例ナリ、我が國未火災保險會社ノ設アラズト雖モ、英國等ニテハ盛ニ行ハレ、其功益モ亦甚大ナリ、而シテ其危險ノ大小ニ由リ、三種ニ別ツヲ常トス、即尋常、危險、重危險是ナリ、尋常ハ煉瓦若クハ石造ノ家屋ニシテ、瓦、石板若クハ金屬ヲ以テ葺キタルモノヲ謂ヒ、危險ハ一部若クハ全部木材ヲ以テ造リ、瓦、石板若クハ金屬ヲ以テ葺キタル家屋、又ハ第一種ノ家屋ニシテ、危險ノ職業ヲ爲スモノヲ謂ヒ、重危險ハ藁ヲ以テ葺キタル家屋ヲ謂ス、而シテ其危險ノ比例ニ隨ヒ、

保險料モ亦大ニ異ナルモノナリ、  
生命保險ハ其組織他ノ保險ヨリモ稍繁雜ニ涉  
リ隨テ最利益アリ、最緊要ナルモノナリ、此保險  
法ニテハ、被保人ヨリ若干ノ保險料ヲ納ムルト  
キハ、何時死亡スルトモ、會社ハ其家族ニ約定ノ  
金額ヲ支給スベキ契約ナリ、抑一家ノ主ニシテ  
一朝死亡スルトキハ、妻子眷屬ヲシテ飢渴ニ苦  
マシムルモノ少カラズ、故ニ苟子孫ノ安寧ヲ希  
フモノハ、常ニ其扶助金ヲ貯蓄スベキコトナレ  
ドモ、此生命ノ保險法ニ依ルトキハ、一旦保險ヲ

約シテ、一回若クハ數回、保險料ヲ會社ニ納メタ  
ル後ハ、其人直ニ死亡スルトモ、會社ハ必其遺族  
ニ、約定ノ金額ヲ給スベキモノナレバ、死後ノ安  
寧ヲ計ルニハ、極メテ便利ノ法ト謂フベシ、生命  
保險會社ニ三種アリ、第一ハ被保人モ亦社中ノ  
一人ニシテ、已ハ他人ニ保セラレナガラ、已モ亦  
他人ヲ保シ、其利益ハ會社ノ有ニアラズシテ、其  
社中ニ配賦スルモノナリ、第二ハ株主ノ釀金ヲ  
以テ資本ト爲シ、若シ各被保人ヨリ納レタル保  
險料ヲ以テ、死亡者ノ遺族ニ支給シテ、尚足ラザ

ルトキハ、其資本ヲ以テ之ヲ償フモノナレバ、其利益モ亦專株主ノ所得タルモノナリ、第三ハ第一第二ヲ混合シタルモノニシテ、資本主ハ事務ヲ擔任スレドモ、利益金ハ之ヲ社中ニ分配シ、被保人モ亦之ヲ受クルノ權アルモノナリ、明治生命保險會社ハ、本店ヲ東京ニ置キ、資本金拾萬圓ニシテ有限責任ナリ、國內ノ諸方ニ支店ヲ設ケ、益業務ヲ皇張ス、是等ハ實ニ社會ノ幸福ヲ増スニ必要ナルモノニテ、西洋諸國ニ於テ大ニ行ハル、所ノモノナリ、

第十五章 代人

凡ソ何人ト雖モ、商用若クハ其他ノ事故ニ因リ、已ノ名義ヲ以テ、他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アルモノナレバ、他人ト契約、取引等ヲ爲スニ當リ、代人ヲ以テスルモ更ニ差支アルコトナシ、抑代人ニ總理代人、部理代人ノ別アリ、總理代人トハ、其代人身上諸般ノ事務ヲ代理スル者ヲ云ヒ、部理代人トハ、特ニ其委任シタル部内ノ事務ノミヲ代理スル者ヲ云フ、總理、部理ヲ問ハズ、代人ノ委任セラレテ執行シタル事ハ、本人自

委任狀

拙者儀某事ニ付何誰を以て總理代人又ハ部と定め拙者の名義よて左の權限の事を代理爲致候事

一何々の事但權限の次第を分載をベ

右代理の委任狀仍て如件

年月日

住所身分  
氏名印

身ノ關係タルモノナレバ、代人ヲ撰ブトキハ、必其人ノ行狀ト性質如何トヲ鑑ミ、若疑ハシキ所アレバ決シテ之ニ委任スベカラズ、故ニ平生心術正實ニシテ、年齢ハ滿二十以上ノ者ヲ撰ムベシ、既ニ代人ヲ得テ契約取引等ヲ爲サント欲スルトキハ、必實印ヲ押シ

タル委任狀ヲ代人ニ與フベシ、然レドモ其家業ヲ取扱フ場所ニ於テ、通常ノ事務ヲ取扱ハシムルガ如キハ、別段委任狀ヲ與フルニモ及バザルコトナリ、又永ク代理ヲ委任スルトキハ、之ヲ新聞紙ニ廣告スルヲ宜シトス、

第十六章 問屋、仲買

我が國ニ於テ、問屋ハ產地ヨリ直ニ物品ヲ購入レテ、仲買又ハ小賣商ニ賣捌ク、卸賣商ノコトヲモ稱スレドモ、多クハ地方ノ製産者若クハ商賈ヨリ輸送スル物品ヲ引受ケテ、入荷ノ陸揚諸費



ヲ立替へ、荷主ノ差圖スル直段、又ハ其時ノ相場  
ニ仕切り、口錢トシテ賣代ノ若干分ヲ荷主ヨリ  
申受クル代理店ノコトヲ謂フモノナリ、例ヘバ上  
州ノ生絲商ニシテ、其荷物ヲ横濱ニ於テ賣捌カ  
ント欲スルトキハ、之ヲ横濱ノ生絲問屋ニ送附  
シテ、指直或ハ時價ヲ以テ賣捌クベキ旨ヲ委託  
スレバ、問屋ハ其荷物ノ入荷諸掛リヲ立替へ置  
キ、荷主ノ差圖ニ從テ賣捌キタルトキハ、直ニ仕  
切勘定ヲ爲シテ、賣上證ヲ作り賣揚代金ヨリ、前  
ニ立替タル諸掛リ並ニ口錢トシテ其賣代金ハ

仕切狀

一商品名 何程  
此賣代金何程  
但一個ニ付金若干替  
内

金何程 爲替金  
金何程 何月何日ヨリ日數何日間  
金何程 何月何日ヲ爲替金日歩  
金何程 運賃取替分  
金何程 仲仕賃掛リ物取替分  
金何程 口錢何歩何厘申受分  
合計金若干圓

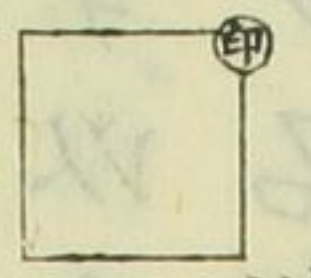
差引殘金若干圓  
右之通勘定差引殘金高相渡此表  
出入無御坐候也  
年月日 住所  
氏名殿 問屋氏名印

一分ナリ二分ナリヲ差引  
キ、正味賣上金ヲ交付スル  
モノナリ、又荷主ニ於テ問  
屋ノ未仕切ラザル前ニ、現  
金ヲ要スルコトアルトキ  
ハ、問屋ニ於テ爲換金ヲ貸  
與シ、利子トシテ金額ノ幾  
分ヲ申受クルヲ常トス、又  
延金トテ賣上濟ノ日ヨリ、  
若干日間猶豫スルコトモ

アルナリ、是ニ由リテ我ガ國ノ問屋ハ、地方製産者、若クハ商人ノ代理人ト爲ルコトアルヲ知ルベシ、

又我ガ國ニテ、仲買ハ問屋ニ付テ物品ヲ買入レ、小賣商若クハ他ニ販賣スル業ヲ唱フルモノナルガ、是モ亦各地商人ノ代理人トナルコトアリ、例ヘバ、東京近在ノ呉服商ノ太物ヲ仕入レントシテ、東京ノ仲買商ヘ、買入ノ儀ヲ囑托スルトキ、仲買商ハ呉服問屋ヲ駈廻リテ、其品ヲ搜シ出シ、直段ヲ問合セ、品物ヲ吟味シタル上、呉服商ノ申

送 状



一何品 數量(何個、俵、函等)

但一個ニ付數量

一菰包 何個

但一個ニ付數量

以上

右今般瀛船何丸ニ積送り候間、貴地着次第御照査の上御受取可被下候也

年月日 住所 氏名印 氏名殿

越ト相違ナケレバ、之ヲ買入レテ太物ノ個數、直段、運賃諸掛並ニ買入手數料ハ、幾干ナリトテ明細ニ記載シタル、荷物送状ヲ送附スルト、同時ニ荷造ヲ爲シテ、呉服商ノ許ヘ太物ヲ運送スルガ如シ、之ニ依リテ仲買モ、亦地方商人ノ代理人トナルコト明カナリ、然レ

ドモ商買柄ニヨレバ、問屋ニシテ仲買ヲ兼業ス  
ルモノモ亦少カラズ、

問屋モ仲買モ得意先ヨリ委托ヲ受ケタル事ハ、  
誠實ニ之ヲ行ヒ、決シテ私利ヲ貪ルガ如キ所行  
ナク、專ラ得意先ノ利徳ヲ考へ、大切ニスベシ、又常  
ニ商況、物價等ヲ得意先へ報告シテ、續々委托ヲ  
受クルヲ勤ムルハ、實ニ肝要ノ事ナリ、右ハ何モ  
已ノ金錢ヲ以テ荷主ノ爲ニ立替へ、自家ノ名義  
ヲ以テ賣買スルモノナレドモ、等シク問屋仲買  
ノ名ヲ以テ、單ニ他人ノ間ニ周旋スルモノ少カ

ラズ、彼廻船問屋ノ如キハ、船主ノ代理人トナリ  
テ、荷物ノ運送ヲ媒介スルニ止マリ、米商會所仲  
買人ノ如キハ、會所ニ對シテコソ自己ノ名義ヲ  
帶ブレドモ、猶他人ノ依頼ヲ受ケテ周旋スルニ  
過ギズ、

凡ソ商業ノ熾ナル市場ニ於ケル巨商ハ、其物品  
ヲ製産地ヨリ、直ニ買入ル、ノ例ナキニアラザ  
レドモ、通常仲買人ノ手ヲ經テ仕入ヲ爲スハ、一  
般ノ大勢ナリ、特ニ手形ヲ買入ル、トキノ如キ  
ハ、大概仲買人ノ媒介ヲ要スルモノニシテ、大ナ

ル商家ニテハ、平時仲買人ヲ定メ置キ、賣買毎ニ之ヲシテ周旋セシムルモノナリ、何トナレバ仲買人ハ、通例一種ノ物品ニ付キテ、甲乙ノ間ニ賣買ヲ商議スルモノナレバ、能ク其物品ノ品質價値、或ハ需要供給等ノ事情ニ通ジ、又手形仲買人ナレバ、手形ノ性質、及商人ノ信用ヲモ熟知スルコト、商人ヨリモ明カナルヲ以テ、斯ク仲買人ヲ利用スル所以ナリ、ニ特ニ、白糖、胡椒、豆蔻、仲買人モ亦問屋ノ如ク、大概特殊ノ商品ヲ專ラニスルモノナレバ、木綿仲買、砂糖仲買、茶仲買、生絲

仲買等ノ名アリ、是等ヲ總稱シテ商品仲買人ト謂フ、英京倫敦ノ如キ商業旺盛ノ地ニハ、此他仲買人ノ種類甚多クシテ、頗ル分業法ヲ擴充スト云フ、即甲乙雙方ノ間ニ立チ、主トシテ爲換手形ノ賣買ヲ調理スルモノヲ爲換仲買人ト稱シ、能ク内外爲換ノ現狀ニ通ジ、又能ク商人ノ信ズベキモノト、信ズベカラザルモノトヲ判知シ、以テ手形ノ確否ヲ知ルニ甚明カナリ、又他人ノ依頼ニ應ジテ、公債證書及合本會社ノ株式ヲ賣買スルモノヲ、株式仲買人ト謂ヒ、船主ノ爲ニ積荷ヲ

周旋シ、雇船ノ約定ヲ爲スノ媒介トナリ、或ハ入港船ニ載積シタル荷物ノ運賃ヲ取立ツル等ノ事ヲ行フモノヲ、船舶仲買人ト稱シ、依頼主ノ爲ニ、生命、財産、保険ノ周旋、保険料ノ割合ヲ定ムル等ノ業務ヲ爲スモノヲ、保険仲買人ト稱シ、其他税關仲買人、貨物仲買人等アリ、

第十七章 手形

手形ハ至極便利ナルモノニシテ、金錢ノ融通ヲ助ケ賣買取引ヲシテ、圓滑ナラシムルハ、概手形ノ効力ナリ、爲替手形ハ、甲ヨリ乙ニ宛テ記載ノ

金額ヲ、丙或ハ其所有權ヲ受ケタル人へ、拂渡スベキ旨ヲ申送ル證券ナリ、此手形ヲ振出スニハ三名ノ人ヲ要ス、即手形ヲ仕出ス人ヲ振出人ト云ヒ、記載ノ金額ヲ拂フベキコトヲ命ゼラル、人ヲ支拂人ト云ヒ、記載ノ金額ヲ受取ルベキ人ヲ受取人ト云フ、又受取人自其手形ニ裏書シテ之ヲ他人へ賣渡シ、或ハ讓渡ストキハ、之ヲ裏書人ト云ヒ、之ヲ買受ケ或ハ讓受ケタル人ハ、即此手形ノ所有權ヲ有スルモノニテ、之ヲ裏書受入ト云フ、此手形ヲ振出ストキハ、必金額振出ノ年

為替手形書式

金若干圓也

番	支	受	期
號	拂	取	日
人	人	人	附
限	附	限	附

割印

番號 為替手形

一金若干圓也

右金額

御覽何年何月何日  
御覽次第何某殿又  
御覽後幾日

御支拂可被成候也

年月日

何縣何區何町何番地

氏名殿

何縣何區何町何番地

氏名印

月日、及場所、支拂ノ期限、及場所支拂人ノ氏名、受取人ノ氏名、受取人或ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ、支拂フベキ旨等ヲ明瞭ニ記載シ、振出人自其氏名ヲ記シテ調印スベシ、若此法式ニ違フトキハ、為替手形タルノ性質ヲ失ヒ、或ハ全ク無効ノ及古トナルコトアリ、宜

組為替手形書式

金若干圓也

番	支	受	期
號	拂	取	日
人	人	人	附
限	附	限	附

割印

番外 為替手形

組之壹

一金若干圓也

右金額何年何月何日何某殿又、同人指圖人、此手形引換、御支拂可被成候也

但此手形御支拂の上、組之二組之三、無効タルべき事

何縣何區何町何番地

年月日

何縣何區何町何番地

氏名殿

氏名印

シク注意スベキコトナリ、又此手形ハ一ノ為替ニ付、同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スモ差支ナク、斯カル場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ、其内一通ニ對シテ支拂ヲ為シタルトキハ、他ノ各通ハ無効タルベキコトヲ記載スベシ、之ヲ稱シテ組為替手形ト云ヒ、海

外ノ遠國へ送ル爲替手形ニハ、大抵之ヲ用ヒ便  
 船毎ニ各一通ヅ、ヲ送ルモノナリ、其故ハ若船  
 船ノ沈没スルガ如キコトアリテ、先方へ達セザ  
 ルトキ、受取人ハ大ナル迷惑ヲ招クモノナレバ、  
 萬一ノ用意ヲ爲ス所以ナリ、條例ニハ此手形ノ  
 金額ヲ五圓以上ニ限ラレタレバ、之ヨリ以下ノ  
 金額ニハ用フルコトヲ得ズ、其金額支拂ノ期限  
 ニ三種アリ、第一一覽拂、第二定期拂、第三一覽後  
 定期拂是ナリ、一覽拂ノ手形ハ、支拂人ニ於テ受  
 取人或ハ手形所持人ヨリ、手形ノ呈示ヲ受ケテ

支拂ヲ請求セララル、トキ、直ニ支拂フベキモノ  
 ナリ、定期拂ノ手形ハ、手形上ニ定メタル期日ニ  
 至リテ、支拂フベキモノナリ、一覽後定期拂ノ手  
 形ハ、受取人或ハ手形所持人ヨリ、一旦支拂人ニ  
 手形ヲ一覽セシメタル日ヨリ、手形ニ記載アル  
 日限ヲ起算シ、期日ニ至リテ支拂フベキモノナ  
 リ、一覽拂ノ手形、及一覽後定期拂ノ手形ハ、手形  
 振出ノ日附ヨリ、三個月ヲ過ギザル間ニ、之ヲ支  
 拂人ニ呈示スベク、又定期拂ノ期限ハ、手形振出  
 ノ日附ヨリ、一覽後定期拂ノ期限ハ、一覽濟ノ日

裏書ノ書式

表面之金額何某殿又  
の同人指圖人へ御支  
拂可被成候也

何府何區何町何番地  
何縣何郡何村

年月日

氏名印

人ニ對シテ、貸方計算アルトキハ、其貸金ヲ以テ  
爲替資金トナスコトヲ得ルナリ、又手形ハ裏書

ヨリ算ヘテ六個月ヲ越ユ  
ベカラズ、抑爲替手形ノ振  
出人ハ、支拂人ニ對シテ、爲  
替資金ヲ交付スルノ義務  
アルモノナレバ、振出人ハ  
必其振出シタル金額ヲ、支  
拂人ニ拂フベキモノナリ、  
然レドモ振出人ヨリ支拂

シテ、其所有權ヲ移轉スルコトヲ得ルモノニシ  
テ、其裏書ニハ買受人或ハ讓受人ノ氏名、及年月  
日ヲ記載シ、賣渡人或ハ讓渡人ノ氏名住所ヲ記  
シテ調印スベシ、裏書人ハ手形ヲ振出シタル人  
及自己ヨリ前ニ裏書シタル人ト共ニ、自己ヨリ  
後ニ裏書シタル人、及手形ヲ所持スル人ニ對シ、  
相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フモノトス、又多ク  
ノ裏書ヲ經テ、最早手形ノ裏面ニ餘白ナキトキ  
ハ、補箋ヲ爲シテ裏書スルコトヲ得ルナリ、  
引受トハ、支拂人ヨリ手形所持人ニ對シ、支拂ノ



約ヲ爲スコトニシテ、定期拂若クハ一覽後定期拂ノ手形ヲ所持スル人ハ、期日前ニ、先<sup>ヅ</sup>其手形ヲ支拂人ヘ示シテ、引受ノ承諾ヲ求ムベシ、斯クテ支拂人ニ於テ、手形ノ支拂ヲ引受ケタルトキハ、「本文支拂ノ儀引受申候也」トノ文字、及其年月日ヲ手形ニ記載シテ、記名調印スベシ、此ノ如ク支拂人、一タビ手形ノ支拂ヲ引受ケタル上ハ、假令手形振出人ガ、身代限ノ處分ヲ受ケテ、爲替資金ヲ交付スル能ハザル場合ト雖モ、其引受ヲ取消スコト能ハズ、若支拂人ニ於テ手形支拂ノ引受

ヲ拒ムトキハ、所持人ハ支拂人ヨリ引受拒絶ノ證書ヲ受取ルベシ、所持人之ヲ受取リタルトキハ、其旨ヲ電信書留郵便、其他總ベテ後日ノ證據トナルベキ手續ヲ以テ振出人、或ハ裏書人ニ通知シ置キ爲替金額及之ニ關スル諸費用ヲ償フニ、相應スル抵當品ヲ取り置クカ、或ハ保證人ヲ以テ支拂ノ保證ヲ爲サシムルヲ得、通知ヲ受ケタル裏書人モ、亦手形振出人、或ハ自己以前ノ裏書人ニ對シテ、所持人ト同一ノ處置ヲ爲スコトヲ得ベシ、又手形所持人ヨリ支拂期日ニ、其支拂

ヲ請求シテ金額ヲ受取ルトキハ、表面之金額正ニ受取候也ト、領收ノ旨ヲ手形ニ記載シ、記名調印シテ金額ト引換ニ、之ヲ支拂人へ交附スベシ、若支拂人ニ於テ支拂ヲ爲サザルトキハ、手形ノ所持人ハ支拂拒絶ノ證書ヲ受ケ、其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナルベキ手續ヲ以テ、振出人及各裏書人ニ通知スベシ、而シテ拒絶證書ノ日附ヨリ十五日以内ニ、振出人或ハ裏書人ノ中、一人若クハ數人ニ對シ、手形面ノ金額、及期限後ノ利子、及拒絶證書並ニ通知ノ費用ヲ合セテ、償還

スベキコトヲ要求スルヲ得ベク、若其要求ニ應ゼザルトキハ、所持人ニ於テ直ニ出訴スルノ權アリト知ルベシ、總ベテ手形所持人ニ於テ、手形ヲ支拂人ニ呈示スベキ期限、或ハ支拂ヲ請求スベキ期限、或ハ拒絶證書ヲ受取リテヨリ、償還ヲ要求スベキ期限ヲ怠リタルトキハ、裏書人及既ニ爲替資金ヲ交付シタル振出人へ對シ、要求ノ權利ヲ失フモノナレバ、必懈怠アルベカラズ、又手形所持人ニシテ手形ヲ遺失シタルトキハ、直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ、其手形ノ流通ヲ止

ムル旨ヲ廣告シ、電信書留郵便其他證據トナス  
 ベキ手續ヲ以テ、支拂人ニ通知シ、其支拂ヲ止メ  
 シメ、振出人ニハ遺失ノ旨ヲ證シ、代リ手形ヲ受  
 クベシ、若其遺失シタル手形ニ、裏書アリシトキ  
 ハ、各裏書人ヲシテ再之ニ裏書セシメ、更ニ其手  
 形ヲ流通スルコトヲ得、若代リ手形ヲ受ケ得ザ  
 ルトキハ、支拂期限ニ至リ、支拂人ニ對シテ真正  
 ノ所持人タル旨ヲ證明シ、支拂ヲ請求スルコト  
 ヲ得ルナリ、  
 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人或ハ其

約束手形書式

金若干圓也

番	受取	日期
號	人	附

割印

番號

約束手形

一金若干圓也

右金額何年何月何日貴殿又ハ  
 貴殿の指圖人へ此手形引換無  
 相違支拂可申候也

何府何郡何村何番地

年月日

氏名印

何府何郡何村何番地

氏名殿

小學商業書

第二

六十七

教育書傳賣所並可及舎

所有權ヲ受ケタル人ニ、自  
 支拂フベキ旨ヲ約シタル  
 證券ヲ謂フ、此手形ハ定期  
 拂ニシテ、金額ハ貳拾五圓  
 以上ニ限り、其他ノ手續ハ  
 爲替手形規則中、約束手形  
 ノ性質ニ及スル條目ヲ除  
 クノ外、皆之ヲ約束手形ニ  
 適用スベキモノナリ、約束  
 手形ハ、初メ振出シタルト

キハ、其性質爲替手形ト、同シカラザルコト勿論  
ナレドモ、一タビ裏書ヲ經タル後ハ、更ニ爲替手  
形ト異ナルコトナシ、何トナレバ裏書シタルト  
キハ、裏書人ヨリ振出人へ宛テ、記載ノ金額ヲ受  
取人へ、拂渡サシムル證券トナレバナリ、即約束  
手形ノ第一裏書人ハ、爲替手形ノ振出人ト爲リ、  
約束手形ノ振出人ハ、爲替手形ノ支拂人ト爲リ、  
約束手形ノ裏書ヲ受ケタル人ハ、爲替手形ノ受  
取人ト爲ル、故ニ爲替手形ニ用フベキ諸條ハ、約  
束手形ニ適用スルヲ得ルモノナリ、

振出小切手ハ、振出人記載ノ金額ヲ受取人へ支  
拂フベキ旨ヲ銀行ニ宛テ申送リタル證券ヲ云  
フ、此小切手ハ其性質大ニ爲替手形ニ似タリ、唯  
其異ナル所ハ、爲替手形ノ支拂人ハ、常ニ銀行タ  
ルニ止マルノミナリ、凡ソ商業繁盛ノ地ニ於テ  
ハ、銀行へ預ケ金アル商人ハ、金銀ノ支拂ヲ爲ス  
トキ、其銀行ニ宛テタル振出小切手ヲ以テスル  
モノナリ、此小切手ハ請求次第、銀行ヨリ所持人  
ニ支拂フベキモノニテ、之ヲ受取リタル人ハ、成  
ルベク早ク銀行へ示シテ、記載ノ金高ヲ受取ル

べシ、若之ヲ猶豫スル中、一朝銀行閉店シテ支拂  
 ハザルガ如キコトアレバ、所持人ハ振出人ニ對  
 シテ、復タビ之ヲ要求スルノ權ヲ失フモノナリ  
 故ニ商家ニテ之ヲ受取ルトキハ、即日銀行へ持  
 參シテ現金ヲ受取ルカ、或ハ其人同銀行へ預ケ  
 金アレバ、其預ケ金中ニ振込ムヲ以テ習慣トス、  
 然レドモ銀行ニ於ケル、吾預ケ金ノ多少ヲ調査  
 シタル後ニ非レバ、此小切手ヲ振出スベカラズ、  
 何トナレバ若預ケ金僅少ニシテ、小切手ノ金額  
 ヲ償フニ足ラザルガ如キコトアリテハ、大ニ世

ノ信用ヲ失フベケレバナリ、

小學商業書第二終  
 校用

明治廿一年八月 日印刷  
同 年八月 出版

定價金拾五錢

神奈川縣橫濱區北仲通三丁目四十九番地寄留

著者 松田好生

東京下谷區練堀町十四番地

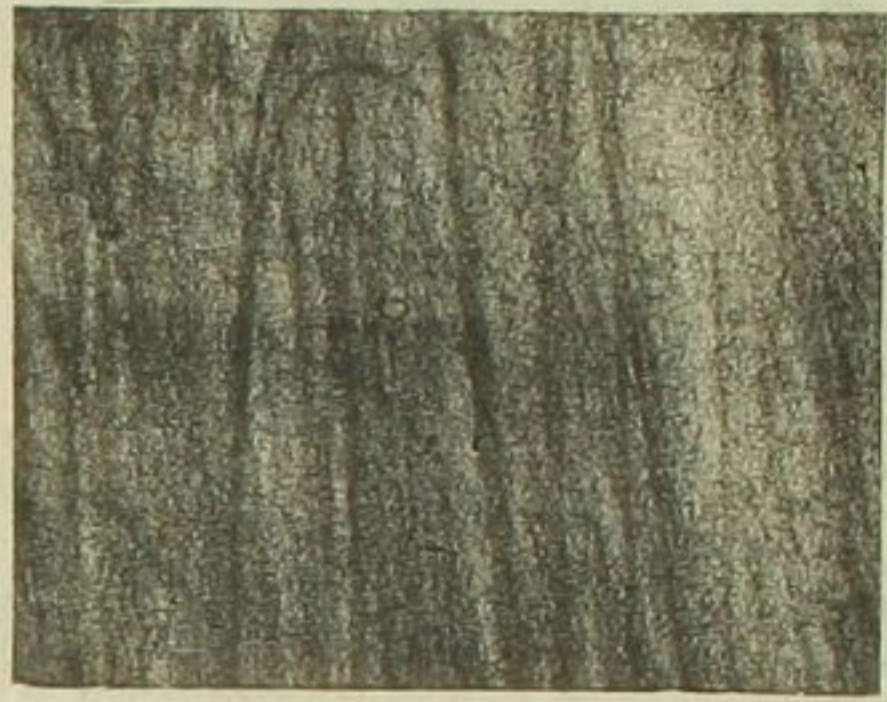
發行者 辻敬之

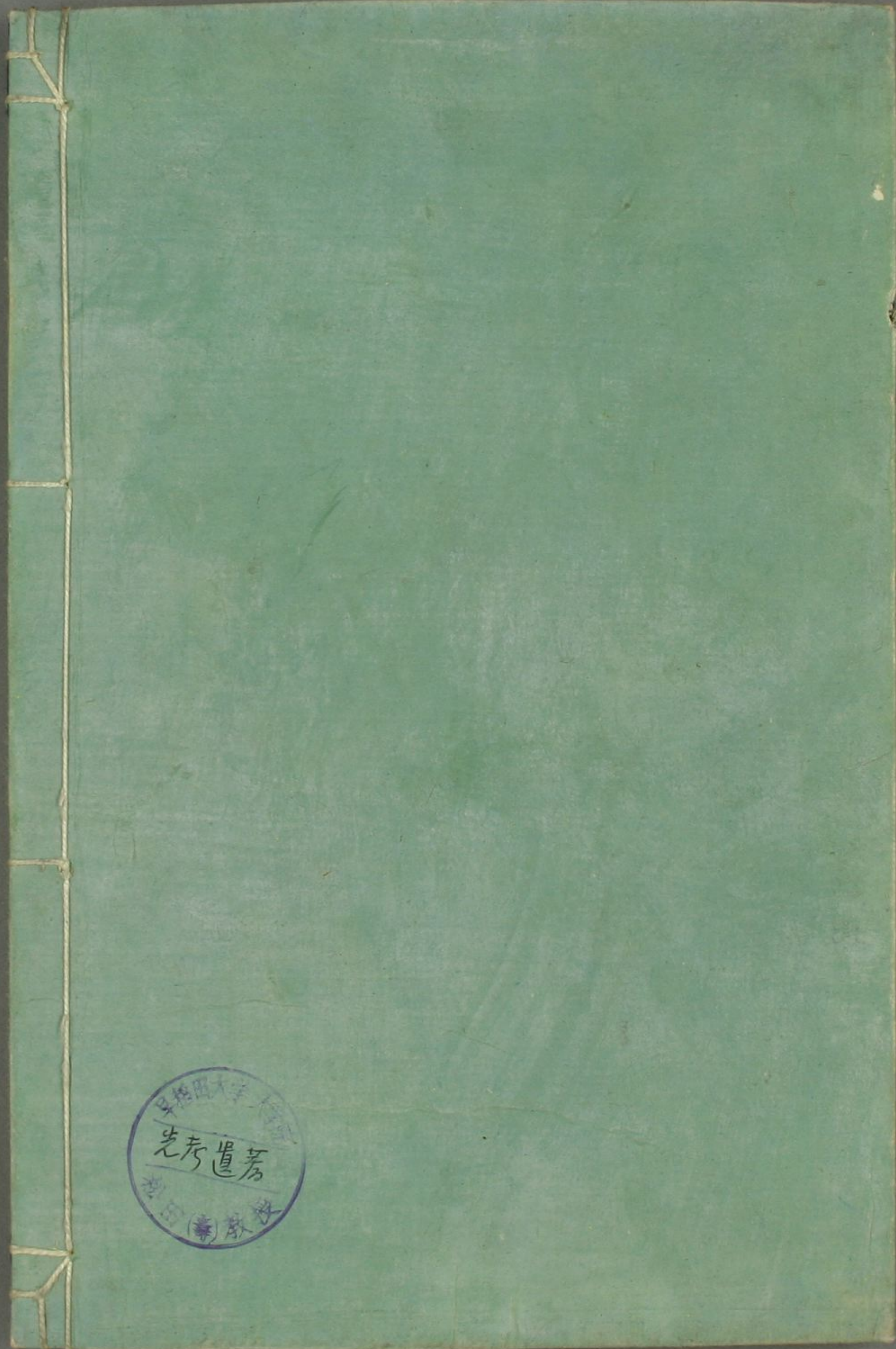
東京下谷區御徒士町壹丁目七番地

印刷者 沼尻為作

東京下谷區練堀町十四番地

發兌 普及舍





早稻田大学  
文学部  
先考遺著